

## topics

- 創刊にあたって
- [お知らせ]  
3.0テスラMRIが導入  
米国内科専門医資格取得した佐藤雅彦  
先生が赴任
- 診療科紹介
- 治験のご案内
- VMCセミナー



## 創刊にあたって

もう15年も前のことでしょうか、とても珍しい症例に出会いました。その猫は、鼻漏、喘鳴、散瞳を示し失明に至ったため、頭部のMRI検査を行ったところ脳底部に径3cmほどの腫瘍が見つかりました。その後、旋回、意識障害を示したため予後不良と判断され安楽死されました。病理解剖を依頼され、頭蓋を開け脳を取り出したところ、まさしくMRIでの見立てどおり、下垂体が収まるべきトルコ鞍に親指大の腫瘍が、画像そのままにみとめられました。この時、MRIの威力をまざまざと見せつけられた気がしました。後日の病理組織検査で、この腫瘍は頭蓋咽頭腫

(Craniopharyngioma)と確定診断されましたが、もちろん初めての経験でしたし、その後同様の症例には出会ったのはたった一度きりです。

子供の頃から、体の中を透視できたらどんなに凄いことだろうと思っていました。もちろん、いかがわしい透視ではありません。初めてX線撮影画像をみたのは、50年ほど前になりますが、右肘関節を脱臼した小学生の頃だったでしょうか。自分の腕の骨が写っていたのは大きな衝撃でした。一体何でこんなことが可能なのだろう。小学生の頭では想像すらできませんでした。

15年前の頭蓋咽頭腫のMRI画像は50年前のX線画像に比べたらまさに雲泥の差でしたが、今度新しく導入されたMRIは3.0テスラの性能で、これまでの装置に比べてはるか

に解像度がよいものです。本号の記事の写真をみると何と小脳の断面構造まではっきりとわかります。体の中の細かい部分まで覗かれている気がしてちょっと恥ずかしいですが、脳疾患などMRI対象症例の紹介、遠隔画像診断の依頼など、ぜひご活用ください。

このたび、「VMC通信」が創刊されました。東京大学附属動物医療センターからのお知らせなど随時ご案内いたしますので、ご一読いただければ幸いです。

センター長／農学博士  
獣医病理学研究室教授(兼任)  
中山 裕之 Nakayama Hiroyuki



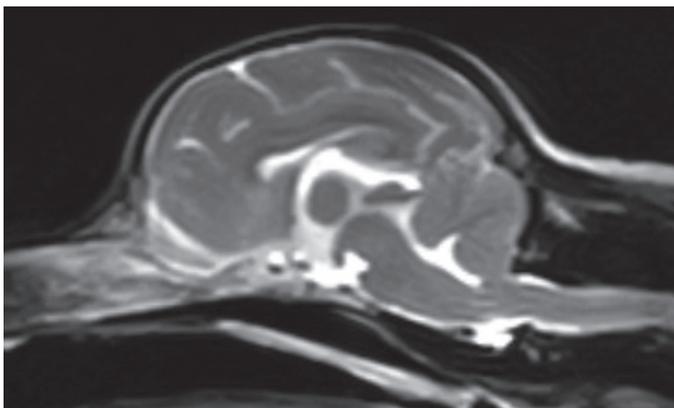
## お知らせ

## 3.0テスラMRIが導入されました

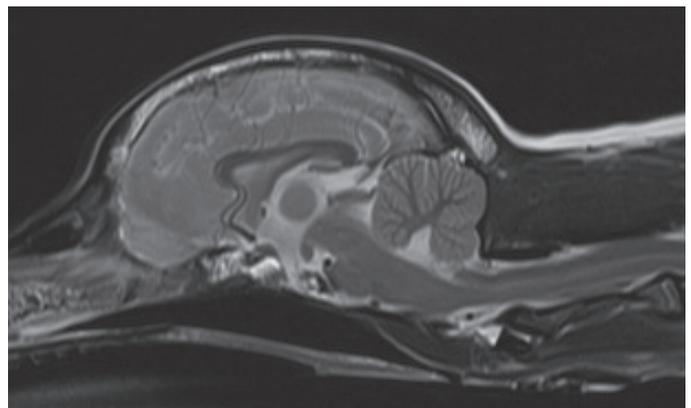


昨年11月より行っていたMRIの入れ替え工事が完了し、今年1月14日より新装置の稼働を開始しました。今回導入した3.0テスラMRI装置(キャノンメディカルシステムズ社 Vantage Galan 3T)は、これまで用いていた0.4テスラMRI装置に比べて分解能が高く、細かい血管や小さな病変の観察が可能です。これまでMRI検査の中心となっていた頭蓋内・脊髄疾患に限らず、軟部組織疾患、循環器疾患など幅広い疾患を対象に運用して参ります。

また、当院では遠隔画像診断業務も受けております。遠方であっても、ネットを介してデータを転送していただければ、画診診断部の専門の獣医師が読影し3営業日以内にレポートをご返送いたします。現在のところ初期費用0円(登録費・年会費ともに無料です)、1件より依頼可能ですので、是非ご利用ください。(詳細は左のQRコードを参照ください)



従来MRI



今回導入された3.0T MRI

お知らせ

## 米国内科専門医資格を取得した佐藤雅彦先生が赴任しました



佐藤先生（猫派です）

はじめまして、昨年9月から東京大学動物医療センターに赴任しました佐藤です。米国で学んできたことを少しでも社会に貢献できるように、臨床・教育・研究に力を注いでいきたいと思っています。こちらでは、小動物内科全般を担当させていただいております。小型犬の気道や尿路も観察できる新しい内視鏡も導入され、診断技術も向上しています。

お困りの症例がいらっしゃいましたら、是非ご紹介・ご相談くださいますようお願い申し上げます。

内科系診療科 佐藤雅彦



新しく導入された気管支鏡システム

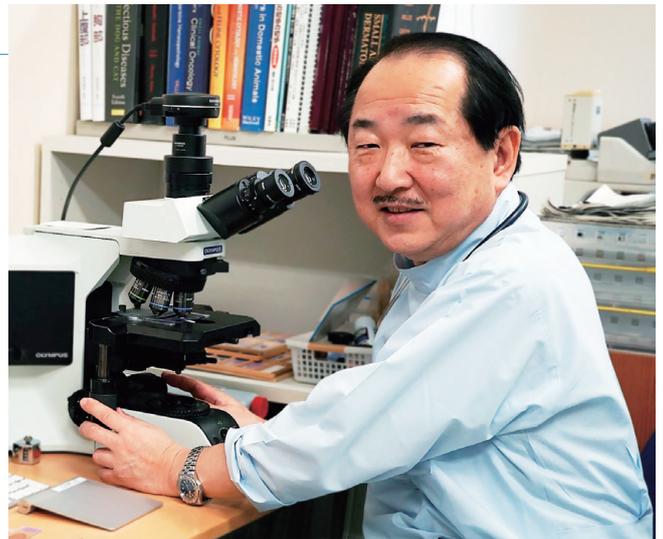

 診療科紹介

## 血液・腫瘍内科

辻本 元（つじもと はじめ）

当院内科系診療科の血液・腫瘍内科には科長の辻本元のほか、大参亜紀、富安博隆、佐藤雅彦の計4名のスタッフが所属しております。当科では血液疾患や化学療法が適応となる腫瘍性疾患を中心に様々な疾患を診療対象としています。診断においては血液検査や細胞診のほか、骨髄検査、病理組織学的検査、遺伝子検査などを駆使して診断が困難な疾患の診療を進めています。治療に関しても輸血などの重要な支持療法や既存の抗癌剤に加え分子標的薬などの新規治療法も積極的に取り入れております。そのほか、臨床研究も盛んに行うことで多くの新たな知見を学会発表や学術論文として発表するとともに、それらの成果をもとに新規治療法の確立を目的とした臨床試験なども積極的に行なっております。

これらの疾患のほかに皮膚疾患や感染性疾患も本診療科にて診察を行なっております。お困りの症例がございましたらぜひご紹介ください。



## 整形外科・神経外科

本阿彌 宗紀（ほんなみ むねき）

運動器とは、骨、関節、筋、腱、靭帯、神経の総称です。運動器のどこかに異常があれば、動物は「跛行」を示します。一言で「跛行」といってしまえば簡単ですが、運動器のどこにどのような異常があるのかを見つけ出すのは、一筋縄ではいきません。様々な運動器疾患を確実に診断できるように、触診、単純X線検査はもちろん、必要に応じて最新の設備である80列CT、3T MRI、関節鏡を駆使しています。しかしながら、これらの最新設備は少なからず麻酔や侵襲を伴います。そこで、最近では運動器エコー検査をほとんどの症例に導入することで、無麻酔、無侵襲で診断までとり着ける症例もかなり増えてきています。様々な疾患に対する運動器エコーの有効性を示すためにも、多くの症例データの蓄積にご協力ください。また、当科では、新鮮骨折の早期受け入れ、骨肉腫症例の患肢温存術、重度の骨癒合不全症例に対する骨再生なども行なっております。お気軽にお問い合わせください。



# Information

## 治験のご案内



東大VMCでは以下6つの治験プログラムを実施しています。対象となるのは犬の腫瘍性疾患（組織球性肉腫・移行上皮癌・前立腺癌）や、ネコの慢性腎臓病など、いずれも現在の獣医療では根本的な治療が難しい疾患です。当該症例に遭遇した場合は当センターへのご紹介をお願いします。詳細は右上のQRコードを参照ください。

### ✓ 犬の組織球性肉腫に対する治療試験

- 対象**
- 播種性組織球性肉腫と診断された犬
  - 化学療法が適応と判断され、第一選択薬であるロムスチン（あるいはニムスチン）が投与されたものの、当初より効果が認められない、あるいは効果が認められた後に耐性を獲得した症例
  - 東京大学附属動物医療センターへの来院が可能

### ✓ 犬の膀胱・尿道移行上皮癌および前立腺癌に対する臨床試験

- 対象**
- 移行上皮癌（膀胱・尿道）、または前立腺癌と診断された犬（※疑いで紹介していただいても構いません）
  - 抗がん剤、放射線療法、外科摘出を実施していない（NSAIDsは可）
  - 薬剤を1日1回経口投与できる
  - 東京大学附属動物医療センターに通院できる（4週間に1回程度の頻度です）

### ✓ 猫・犬の慢性腎臓病に対する臨床試験

- 対象**
- 慢性腎臓病と診断された猫および犬（Cre = 2.0 ~ 5.0）
  - 現在、尿管結石症、尿石症、細菌性膀胱炎、腎盂腎炎を有しない（※他の薬や療法食は与えていても与えていなくても結構です）

### ✓ 犬の特発性てんかんに対する臨床試験

- 対象**
- 特発性てんかんと診断された犬
  - 抗てんかん薬で治療中
  - 試験開始前の1ヶ月間で2回以上の発作が認められた

### ✓ 猫悪性腫瘍に対するニムスチンの臨床試験

- 対象**
- 細胞診または病理組織学的検査にて悪性腫瘍と診断された症例
  - 放射線療法、外科的手術、骨髄抑制を起こす化学療法を2週間以内に実施していない症例
  - 東京大学附属動物医療センターに通院できる（週に1回の頻度で投与から3週間目まで）

### ✓ 猫の多発性嚢胞腎に対する臨床試験

- 対象**
- 多発性嚢胞腎と診断された猫（※疑いで紹介していただいてももちろん構いません）
  - 治療を実施していない（治療されている場合、4週間以上の休薬期間が必要）
  - 飼い主さまのご自宅で皮下補液を1日2回実施することができる（皮下補液の方法をレクチャーした後に担当医と一緒に練習してもらいます）
  - 東京大学附属動物医療センターに通院できる（3ヶ月に1回程度の頻度です）

## VMCセミナー



VMCセミナーでは、臨床教員1名による教育講演と、内科系・外科系研修医1名ずつによる症例検討会を開催しています。学内外を問わず獣医臨床を志す多くの方の参加をお待ちしています。

対象	臨床獣医師、獣医学科学生	開催日	隔月1回（奇数月） 金曜日 20:00 ~ 22:00
参加料	無料（事前予約の必要はありません）	場所	農学部2号館2階第1講義室 （人数によっては変更の可能性あり）



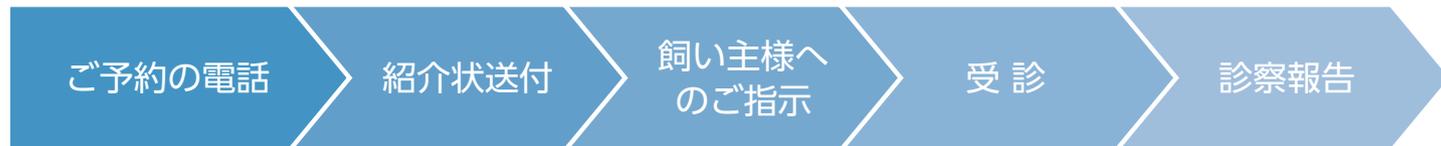
セミナーの日程、内容についてメールでのご連絡を行っております。  
ご希望の方は下記連絡先までご連絡下さい。登録確認メールをお送りいたします。



- 発行時期（内容）：4月および9月頃（日程連絡）、当月（セミナータイトル）
- 対象：獣医師（研修医、学生）および医療従事者（薬剤師、製薬会社、医療機器製造販売会社等を含む）

連絡先 本阿彌 宗紀 [utvmc.info@gmail.com](mailto:utvmc.info@gmail.com)

# 初診予約～診察の流れ



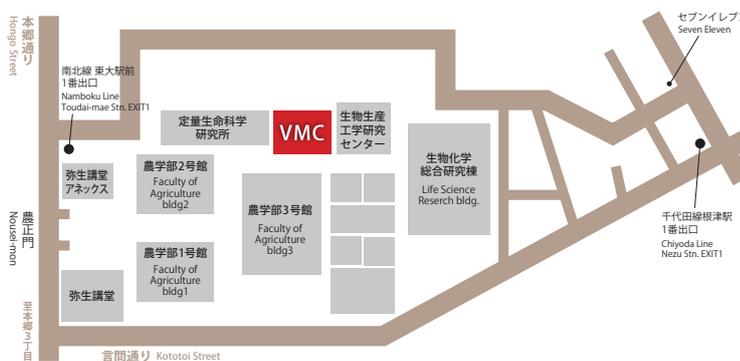
- かかりつけの動物病院よりお電話にて希望診療科と日時をお伝えください。
- 事前に本センターへFAXにてお送りください。
- 当日、朝に食事を与えないよう指示をお願いします。
- 飼い主様にお持ちいただけるよう紹介状をお渡しください。
- 診断結果・治療方針などについて、電話および書面にてご報告します。

## 初診外来表

診療科	受付時間	月	火	水	木	金
内科系	9:00-14:00	○	○	○		○
外科系	9:00-15:00	○	手術	手術	○	手術
眼科	9:00-15:00	○	○	手術		○
エキゾチック	9:00-15:00	○		手術		
行動	10:00-15:00	○			○	

予約専用(代表) ☎ **03-5841-8004** (平日 11:00 ~ 16:00)  
 其他のお問合せ ☎ **03-5841-5420** (平日 9:00 ~ 16:00)  
 ☎ **03-5841-5413** (平日 16:00 ~ 20:00)  
 行動診療科はFAXにて予約: **03-5841-8190**  
 (詳細は <http://www.vm.a.u-tokyo.ac.jp/koudou/j-clinic1.html>)

## アクセス



- ★電車でお越しの場合：
  - ・メトロ南北線 東大前駅 出口1から徒歩3分
  - ・メトロ千代田線 根津駅 出口1から徒歩13分(根津駅からは登り坂です)
- ★お車でお越しの場合：
  - ・農学部正門からお入りください。病院の前までお入りいただけます。

## ご予約時の注意点 (詳細は右下のQRコードをご参照ください)

当センターでは病気の確定診断や、手術などを含む高度医療に主力をおいています。一般的な治療や診断後・安定後の治療はできる限り紹介医にお願いすることを原則としておりますので、あらかじめご了承ください。

- ・外科の初診は診察のご予約になります。手術のご予約ではありませんのでご了承ください。また、麻酔が必要な検査や処置は初診当日に行えない場合があります。
- ・当センターの放射線治療装置はオルソボルテージのみとなっています。当センターでの対応が難しい場合は他の診療施設を紹介させていただく場合があります。オルソボルテージの装置では適応外の可能性がある場合は他の診療施設への紹介をご検討ください。
- ・診断あるいは治療方針が確定しましたら、原則として紹介病院にお引き継ぎいただきます。
- ・ご紹介後、当院の休診日(土日祝日など)で対応できない場合は、貴院でのご対応をお願いいたします。(診察日であっても緊急手術などの緊急対応には原則として応じることができませんのでご了承ください。)
- ・当センターはエキゾチック動物診療科を設置しておりますが、動物種によってはお受けできない場合がありますのでご了承ください。

また、以下の点を飼い主様へ説明をお願いします。

- ・来院当日の朝は絶食の上でお連れください(飲水は可)。(糖尿病、幼齢、エキゾチック動物などで絶食が困難と思われる場合は当センターにご確認ください)
- ・当日の検査は、動物の状態や当センター全体の検査状況に応じて行います。初めて来院される際に、必ずしも全ての検査が行なえるとは限りませんのでご了承下さい。
- ・緊急性がある場合をのぞき、予約当日の外科手術は行なっていません。



休診のお知らせなどの情報更新は随時HPで公開しております。HPもぜひご覧ください。

<http://www.vm.a.u-tokyo.ac.jp/vmc/> Facebookもチェック



東京大学附属動物医療センター  
 Veterinary Medical Center, The University of Tokyo

【住所】 〒113-8675 東京都文京区弥生1-1-1  
 【TEL】 予約専用(代表) : 03-5841-8004 【受付時間】 平日11:00~16:00  
 其他のお問合せ : 03-5841-5420 【受付時間】 平日 9:00~16:00  
 03-5841-5413 【受付時間】 平日16:00~20:00  
 【URL】 <http://www.vm.a.u-tokyo.ac.jp/vmc/>